



会長 加藤 功
幹事 富樫 松夫

国際ロータリー第2800地区

鶴岡ロータリークラブ

超私の奉仕

例会日：毎週火曜日 午後 12:30～1:30

例会場：鶴岡市錦町 東京第一ホテル鶴岡

事務局：鶴岡市馬場町11-63(産業会館3F) TEL 0235-28-3375

第2319回 例会会報 平成18年6月20日(火) 晴(本年度 第43回)

会長報告

加藤 功

シュンペーターは、「資本主義は成功する故に滅亡する」と、マルクスは、「資本主義は失敗する故に滅亡する」と明言した。これらのいずれも肯定せず今日のマクロ経済学の創始者となっている経済学者、ジョン・メイナード・ケインズ(1883～1946)は、著書『雇用・利子および貨幣の一般理論』(1936)で、資本主義市場経済では不可避とされる失業と不況の原因を明らかにして完全雇用達成の理論を提示し、のちにケインズ革命ともよばれる近代経済学の変革をもたらした。彼の理論を基礎とするマクロ経済学をケインズ経済学・ケインジアンといわれる。アメリカケインジアン、ポールA・サミュエルソン(1915～)は、ミクロ経済学(市場の調整機能を重視する新古典派)とマクロ経済学(ケインズを理論的基礎とする国民所得の理論)を組み合わせた新古典派統合の創始者で、世界的教科書『経済学』の著者でもある。サミュエルソンは、不況時に公共投資を実施することの有効性を指摘し、景気の過熱や過度の後退を避けることで前進的成長(経済)を維持できるという理論を提示した。「ノーベル経済学賞はサミュエルソンにノーベル賞を受賞させるために創設された」といわれている。

日本の食糧・農業・農村の経済社会政策は、自立可能な農業者の創設を基礎としたミクロ経済学的視点と共に、国民経済にとって食糧・農業・農村の役割・機能を重視するマクロ経済学的視点で展開されねばならない。しかし、国際市場経済の論理を貫徹すると日本の農業は、縮小・消滅過程を辿ることになる。それを阻止するには、ケインズ学派流に言えば、農業の国内「有効需要」を高める政策である。食糧の国内自給率を高める意外にはないと確信する。米生産以外の穀物生産の麦類・豆類、特に飼料生産の外国依存は、国内自給率を低下させている最大の要因である。国内自給率の維持・向上を前提にした農業

生産・農村生活基盤整備というハード事業に基づいて、自立可能な経営の確立というソフト事業を展開する必要がある。農業経営者の決断・意思決定に期待すると共に、政策支援策に大いに期待している。

ケインズは労働者階級・企業家階級・金利生活者階級の3階級で社会(経済の世界)を把握した。フローの世界の担い手は労働者階級と企業家階級、ストックの担い手が金利生活者階級で、彼は金利生活者階級が他の2階級の利害と対立すると見た。ストックの世界では金利生活者が自らの資産を維持しようと、債権と貨幣のいずれかで資産を持とうとする。ストックの世界で貨幣需要が高まると、貨幣はフローの世界からストックの世界へと吸い上げられていく。これが利子率を上昇させ、投資を削減させて、フローの世界の活動が縮小し、大量の失業が発生していると見た。これがケインズの不況の原因の説明である。労働市場が機能不全(労働者階級・組合の賃金値上げ運動)を起こしているから、失業が生まれるのではない。これがケインズ理論からの帰結である。

[資料：ケインズ派の経済学(2003年度経済学史学会)]

御礼

ガバナー補佐 富樫 幸彌

この一年間の2800地区そして第2ブロックに対しての加藤会長、富樫幹事はじめ鶴岡クラブさんのご協力に対して厚く御礼申し上げます。鶴岡クラブさんは、IAC、RAC事業、多くの友好クラブとの交流、その他数々の事業を行ったすばらしい加藤年度だったと敬意を表しております。

第2ブロックでは老舗のクラブらしく、歴史を感じさせる、これぞロータリーというべき、模範とすべきクラブであると思っております。

さて、毎年毎年のRC活動は、螺旋階段を昇っている状況といわれております。景色が360度ぐりと変わってゆき、また同じ景色のところに戻ってくる。前と違うのは、数段階を昇ったところから



みんなで止めよう温暖化

アイドリングストップ!!

の景色という訳です。この螺旋階段の中心の丸い柱はロータリー精神です。毎年異なった体制のもとで、同じようなロータリー活動の繰り返しですが、確実にそのクラブの活動レベルは上がっているのです。

鶴岡クラブさんも、今年度加藤会長のもとより高く昇りました。引続き次年度も、丸山会長のもとロータリーという螺旋階段を昇り続けますことをご祈念申し上げまして、この一年間の御礼といたします。

会員スピーチ ウワッチ・・・

樋渡 美智子



最近、一般にいう「子ども見守り隊」。わが町では「ウワッチ」と呼称しているが、今年度から発足し、その一員として朝の登校時間に、地域をまわっている。2001年、大阪教育大付属池田小事件を教訓に、「学校安全週間」が設定、今年の5月末、新たに「学校安全月間」として格上げされた。2006年度の県内防犯ボランティア登録者は164団体、この4月現在で10,000人に達し、個人のボランティアだけでなく企業、子ども110番と組織にもひろがっている。

大塚町は、小学生160人、地域住民の65歳以上は全国平均の25%と比べ、12.4%で、30代が最も多い核家族の町です。ウワッチをとおして親同士の交流がふえ、子どもの見守りだけでなく町の防犯、健康づくり、大人同士の交流にもなっている。

イギリスでは、子どもの登下校は親が責任を持つてする。ドイツ在住日本人が「日本は、みんなが守ってくれる」という。この言葉の裏には多くが考えられる。安全と言われた日本も、残念ながら事件は複雑・多様化し、この傾向が増加することは確実であろう。地域の見守り隊も大切だが、これで安心ではなく、子どもの危険回避予知能力を家庭や学校・地域が育てていかなければならない時期にきている。

日本のお土産

アビー
青少年交換留学生 Abigail Hurley

1年前に日本の冒険は始まりました。「こんにちは」しかわかりませんでした。本当に緊張しました。アメリカからちょっと離れたくありませんでした。でも今、日本から離れたくありません。帰る時は日本のおみやげを荷物に入れますが、いっぱい持って行きたいものがあるので全部は持って帰られません。友達とか、カラオケとか、温泉とか、今の家など、荷物に入りません。一番持って帰りたいものは「自転車の散歩」です。

自転車の散歩で、道が分からなくなってガソリン

スタンドの人が家まで、私と自転車を送ってくれました。それだけでなく、日本人からいっぱい手伝ってもらいました。その「手伝ってあげる生活」。そして自転車の散歩でいつも野菜売りのおばあさんと話して楽しかった。年寄りには賢いので色々なことを学べた。その「家族は大事だという気持ち」。自転車の散歩からいろいろな友達を作りました。その「やさしさとあたたかい気持ち」をアメリカに持ち帰りたいです。

アメリカでも自転車の散歩するけど、日本とちがうと思います。日本は荷物に入らないけど自分の心で日本の生活は持って帰れます!!

委員会報告

●出席委員会

委員長 阿蘇 司朗

本日の出席		前々回の出席	
会員数	46人	出席率	65.12%
出席数	30人	修正出席数	35人
出席率	69.77%	確定出席率	81.38%

●メイクアップされた方

阿部純次君・藤川亨胤君・秦 幸助君
本間昭吉君・加藤 功君・加藤恒介君
丸山隆志君・御橋義諦君・真島吉也君
大滝 薫君・越智茂昭君・斎藤 昭君
佐々木喆彦君・佐藤孝子君・佐藤友行君
富樫松夫君・塚原初男君・青柳孝治君
西川富美子君

●ビジター 富樫幸彌君 ガバナー補佐 (鶴岡東 RC) 金 烘鍾君 (鶴岡東 RC)

(スマイル)

富樫幸彌君 第2800地区そして第2ブロックの1年間、御協力有難うございました。

堤 重雄君 転勤により退会させていただきます。皆様より大変お世話になり、有難うございました。

塚原初男君 先週、郷里小国町の新潟県堺に近いコナラ林に、町の森林組合のご協力を得て、樹勢強化法によるナラ枯れ防止実験林を設定させていただきましたので。

佐藤孝子君 アビさん、楽しいスピーチありがとう。

加藤 功君 富樫ガバナー補佐、1年間ご苦労様でした。大変お世話になりました。ご指導有難うございました。

富樫松夫君 ○富樫ガバナー補佐、訪問ご苦労様です。○アビさん、元気でがんばって下さい。○堤さん大変ご苦労様でした。赴任先でのご活躍を祈念致します。